

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	安藤 愛	職名	助教	学位	修士(看護学)(福岡県立大学 2017年)
----	------	----	----	----	-----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
精神看護学	ストレングス 精神科病棟 精神科看護 継続

研 究 課 題
精神科看護の臨床現場におけるストレングスモデルの活用・継続に向けた課題の明確化

担 当 授 業 科 目
精神看護学演習、看護技術論、診療関連技術論、基礎看護学実習Ⅱ、家族と健康(前期)(看護学科) 精神看護方法論、精神看護学実習、基礎看護学実習Ⅰ(後期)(看護学科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 精神看護学演習 】</p> <p>実習に向けてペーパーペイシエントによる看護展開とプロセスレコードを活用した自己の対話の振り返り方法の伝授を主に行った。学生の情報収集能力強化に向けて目的を明確にした情報収集の必要性を伝えると共にワークシートの工夫を行った。できるだけ実際の看護がイメージできるように臨床指導者にも演習に参加していただいた。学生が事例の展開を行う過程で患者の気持ちを考え、成育歴や生活歴を踏まえたアセスメントが行えるように具体的な問いかけや解説を心がけた。</p>
<p>授業科目名【 精神看護方法論 】</p> <p>「パーソナリティ障害」「大人の発達障害」「強迫性障害」「適応障害」「身体合併症」をもつ人の看護を担当した。患者の苦痛や生活のしづらさがイメージしやすいように DVD や本を活用し、状況に応じた具体的な看護を深められるようにグループワークを行った。また、特に現代社会で問題になっている事柄を伝え自分の身近な問題として興味関心をもてるように工夫した。</p>
<p>授業科目名【 精神看護学実習 】</p> <p>学生が指導者に質問しやすいよう環境調整を行い、問題が生じた際には指導者および師長との連携を強化した。学生が自分の傾向と向き合い受け持ち患者と関係性を築き、患者の希望や思いを尊重した看護計画の立案・実施ができるよう学生の理解度に応じた問いかけを心がけた。また、グループカンファレンスでは、学生が発言しやすいよう効果的な発問を心がけ、患者理解が深まるよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【 看護技術論 】</p> <p>ベッドメイキングの演習では、技術の重要なポイントをおさえながら指導した。患者役や実践を通して感じたことや考えたことをグループ間で共有し、学生同士で学びを深められるよう環境調整を行った。また、患者の状況を具体的に想起できるよう具体的な情報提供を行い、臨床での実践をイメージできるよう工夫し、観察の重要性を説明した。</p>

<p>授業科目名【 診療関連技術論 】</p> <p>与薬・輸血の演習では、安全に実施できるよう基本的な技術の実施とその根拠の確認を行った。また、与薬・輸血の準備、投与時の確認事項等、臨床現場で実際に行われている方法やリスクについて伝え確認することの重要性を強調した。</p>
<p>授業科目名【 基礎看護学実習Ⅰ 】</p> <p>基本的な臨地実習におけるマナーや報告・連絡・相談の重要性について指導した。学生の日々の目標を明確にし、その目標が達成できるよう指導者と連携し関わった。また、学生が患者との対話を通して患者のニーズや自己の傾向に気づくことができるように患者の気持ちやおかれている状況、学生自身の感情や思考について具体的に発問するよう心がけた。</p>
<p>授業科目名【 基礎看護学実習Ⅱ 】</p> <p>学生が患者との関わりを通して感じたことや気づきをもとに、患者に必要な看護援助が導きだせるよう指導した。また、生活者として患者を理解し、個別性を考慮した援助ができるよう疾病総論や解剖生理学、基礎看護学実習Ⅰで学んだコミュニケーション技術を想起・活用できるよう発問を工夫した。</p>
<p>授業科目名【 家族と健康 】</p> <p>疾患の発症や大きなストレスが生じることによって家族機能がどのように変化していくのか、変化に伴ってどのような支援が必要となるのかがイメージできるよう指導した。個人ワークの充足を図り、グループワークでの意見交換が促進されるよう声かけを行った。学生の状況に応じて、全体へフィードバックできるよう教員間で連携を行った。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
福岡県看護協会会員		2014年4月～現在に至る
日本教師学学会会員		2015年1月～現在に至る
日本精神科看護協会会員		2017年4月～現在に至る
日本精神保健看護学会		2017年4月～現在に至る
日本看護科学学会会員		2017年4月～現在に至る

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 第108回看護師国家試験 問題解説	共	2019年5月	メディカ出版 国 家 試 験 対 策 e-Learning N プラス	第108回看護師国家試験において出題された精神看護学の問題の一部の解説を担当した。
(学術論文)				
(翻訳)				

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表) Trends in case studies on nursing focused on strength in psychiatric ward in japan	共	2019年6月	2019年国際看護師協会大会(シンガポール)	①日本の精神科病棟におけるストレングスに焦点をあてた看護に関する事例研究の対象者の主疾患や入院期間の動向について調査し、ストレングスに焦点を当てた看護実践の特徴と効果についてまとめた。 ②共同発表者名 ○後藤有紀, 安藤愛, 前田由紀子 ③2019年ICN大会抄録集 P1179
				教育研究業績 総数 (2020年3月31日現在) 著書: 3 (内訳: 共3) 学術論文: 2 (内訳: 共2) 学会発表: 3 (内訳: 共3)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者( )内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考
なし (科学研究費を申請したが2019年度不採択)			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
第30回日本精神保健看護学会学術集会	編集副委員長	2018年12月3日～2020年6月14日
福岡県精神看護専門看護師活動促進協議会	会員	2017年3月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

2年アドバイザー (2019年4月～2020年3月31日)

後援会学校委員 (厚生部) (2019年4月～2020年3月31日)